況・ソーシャルサポート各項目回答および回答時間との相関係数を示す。ストレスレベル（θ値）と有意な相関を示したのは、過重労働状況のみであった。個々の項目でも、1『夜10時以降の帰宅』、7『家でも仕事のことが気になる』など半分以上の過重労働状況項目が有意な相関を示した。一方、ソーシャルサポートは尺度合計でも、個々の項目でもストレスレベル（θ値）との関連を認めなかった。

なお、ストレス反応・過重労働状況・ソーシャルサポートの質問項目に対して、1項目あたりの平均反応時間を算出すると、順に、7.0±4.0秒、6.4±3.2秒、7.6±3.0秒と、ほぼ同程度の時間で回答が下されていることが明らかとなった。また、今回の測定システムの最後に、健康相談等の希望についての質問を用意しておいたが、希望有無（希望者9名、非希望者25名）による、すべての尺度合計・反応時間の相違は認められなかった。

D. 考察

IRT-CATシステムを少ない数ではあるが、試用した結果、推定誤差0.35未満で終了する設定では、Pretestの3項目を除けば、6項目程度の質問で収束した。しかし、推定誤差の収束をCATアルゴリズムのルールとすると、識別力の低い、いわゆる傾きの緩い項目が選択されないことがあらためて明らかとなった。

図1のような身体的ストレス反応も測定評価するためには、「身体愁訴」項目群を別のモジュールとして構成する必要がある。

回答における反応時間を見ても、コンピュータ型の測定システムは迅速に測定評価が可能な利便性に優れたツールになり得る。現在の項目プールは、すでに多値型のIRT解析の結果が得られている簡易版調査票項目のみで構成されているが、簡便にデータ収集が出来るこのシステムを活用し、より低いストレスレベルの質問項目や、評定値だけではない質問、例えば残業時間などの数値データの収集も追加していく必要があろう。

一方、IRT-CATの観点から見ると、元々さまざまな精神心理的症状から、最小限度の項目だけを抽出して開発したものであるため、一次元性が基本的条件である通常のIRT、ならびに選択基準では、測定評価領域が狭くなりすぎることが懸念される。多次元IRTなど、さらに新しい理論モデルの適用は可能ではあるが、そのCAT化はさらに非常に複雑であることが予想される。むしろ、CATの利点（中のアルゴリズムが見えない）を最大限に活用して、複数のCAT（CBTも含む）を一連の測定法のように連結して実施するような、複合的システムの構築を検討する必要があるのかもしれない。

いずれにせよ、CAT化によるストレス測定法の開発はまだ端についたばかりである。収束直後の結果のフィードバック表示などのあり方によっても、IRT-CATの適用･応用場面は非常に大きな幅を持ち得ると考えられる。現在、CATシステム第2版へと改良・修正を行っており、来年度のはじめから、今年度の協力事業所に加えて、2つの民間事業所および1公的機関での試用がすでに予定されている。さらに臨床的な妥当性についての検討も計画している。

また、反応時間（時間変数）のような、従来のストレス研究の枠組を超えた評価軸を加えることが、測定評価の精緻化につながるか否か、来年度の検討課題としたい。

E. 結論

ストレス反応および過重労働状況、ソーシャルサポートの3側面を同時にかつ簡便に測定評価することができるコンピュータ型の簡易システムの試作品を開発した。ストレス反

応に関するモジュールは、職業性ストレス簡易版調査票のストレス反応項目に対する多値型 IRT 分析の結果に基づいて適応型テスト（IRT-CAT）システムを構築した。これは、回答者のレベルに応じた質問項目が逐次提示されるものであり、教育領域以外ではこれまでに例のない革新的なストレス評価法である。過重労働状況およびソーシャルサポートの測定は、CBT 形式で設定した。また最後に相談希望の質問と、回答結果のフィードバック画面を加え、システム初版を完成させた。

1 事業所 36 名の試用協力を得、回答データを解析した。平均反応時間は約 7 秒で、モジュールによる相違は見られなかった。ストレスレベルと過重労働状況との有意な関連が認められたが、サポートとの関連は見られなかった。収束条件の問題、一次元性に準拠する制約条件による測定評価領域の狭さ、結果のフィードバック画面等も含めた総合システムの必要性などの課題が明らかになった。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

Iwata N, Kikuchi K. Development of an item response theory-based computerized-adaptive testing (IRT-CAT) for assessing the workers' strain levels. The 2nd ICOH (International Congress on Occupational Health) International Conference on Psychosocial Factors at Work, Okayama, Aug. 2005.

岩田 昇

抑うつ尺度における回答選択肢の適正スコアリングの検討 －An Application of Partial Credit Model－ [ワークショップ] 項目反応理論を利用した心理尺度の吟味と尺度構成の方法. 第69回日本心理学会, 東京(慶応大学), 2005.9.

Iwata N, Kikuchi K.

An IRT-based computerized-adaptive testing for assessing the worker's strain level. APA-NIOSH Joint Conference: Work, Stress, and Health '06, "Making a Difference in the Workplace," Miami, March 2006.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

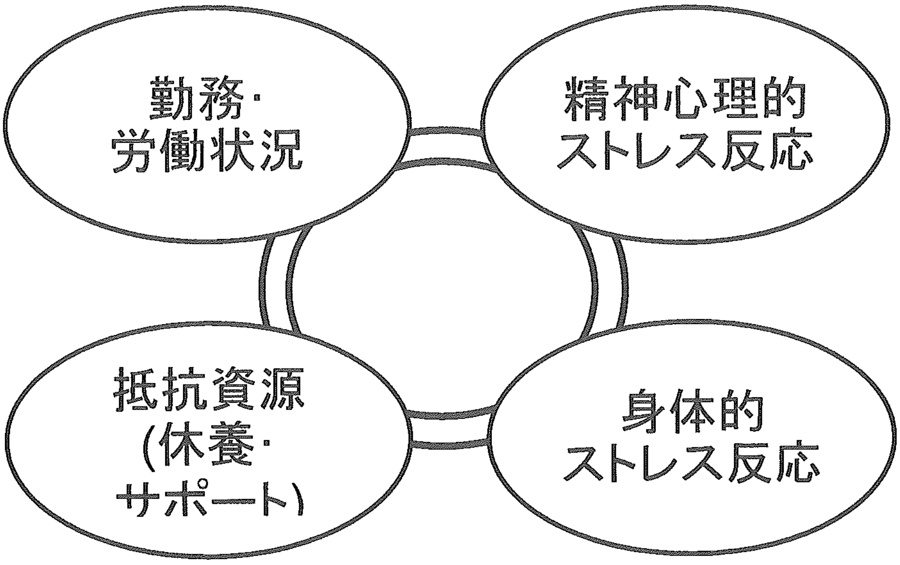


図1　過重労働評価用CAT・CBTシステムの構成

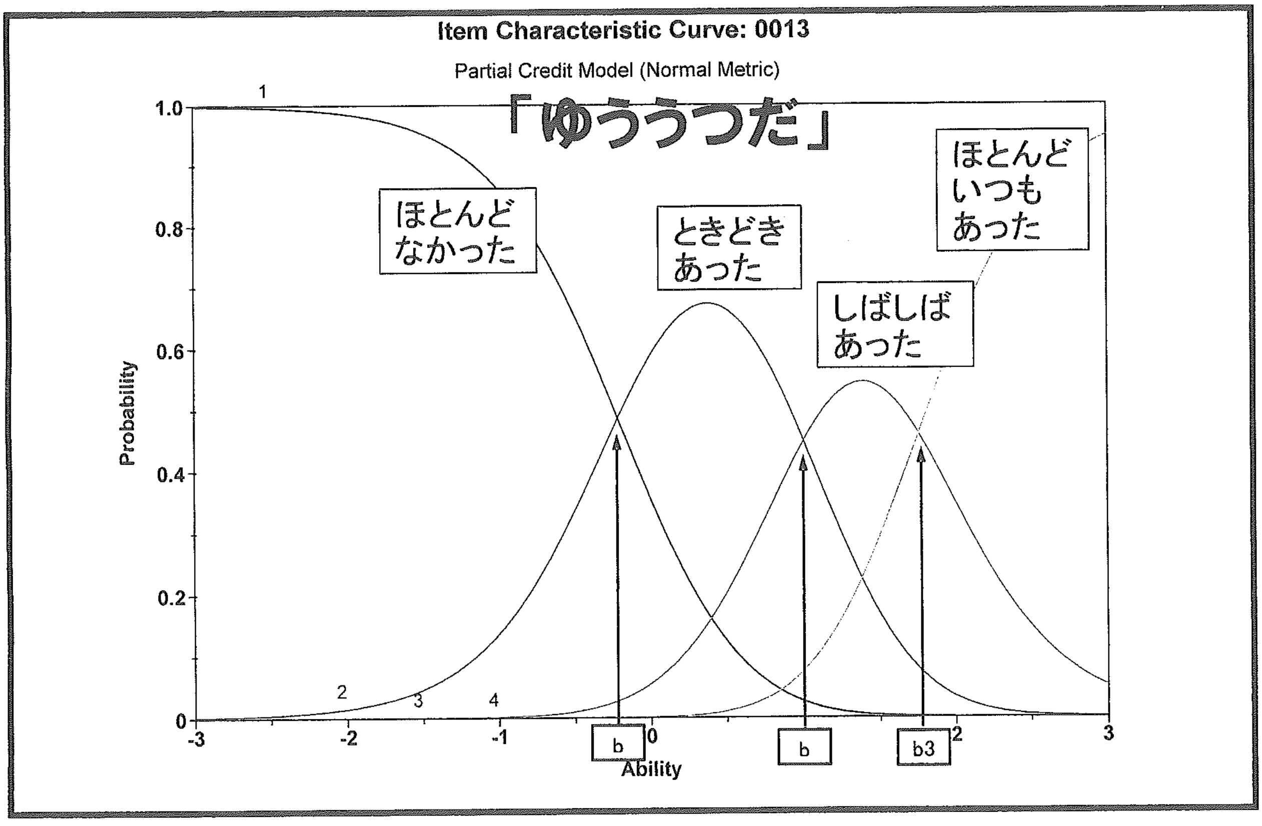
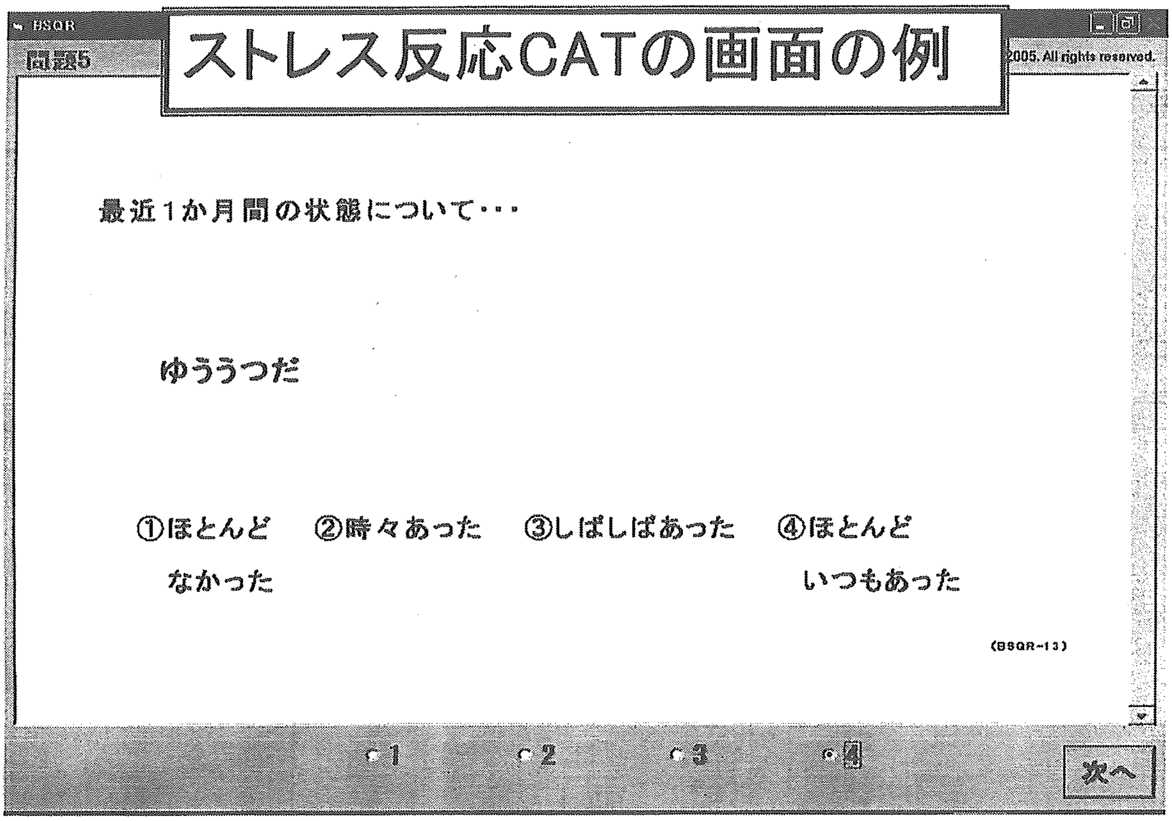


図2　多値型IRTによる項目反応カテゴリ特性曲線（IRCCC）と位置パラメータ（b1～b3）



ストレス反応CATの画面の例

最近１か月間の状態について・・・

ゆううつだ

①ほとんどなかった　②時々あった　③しばしばあった　④ほとんどいつもあった

(BSQR-13)

○1　○2　○3　●4

図3　ストレス反応測定CATの画面例

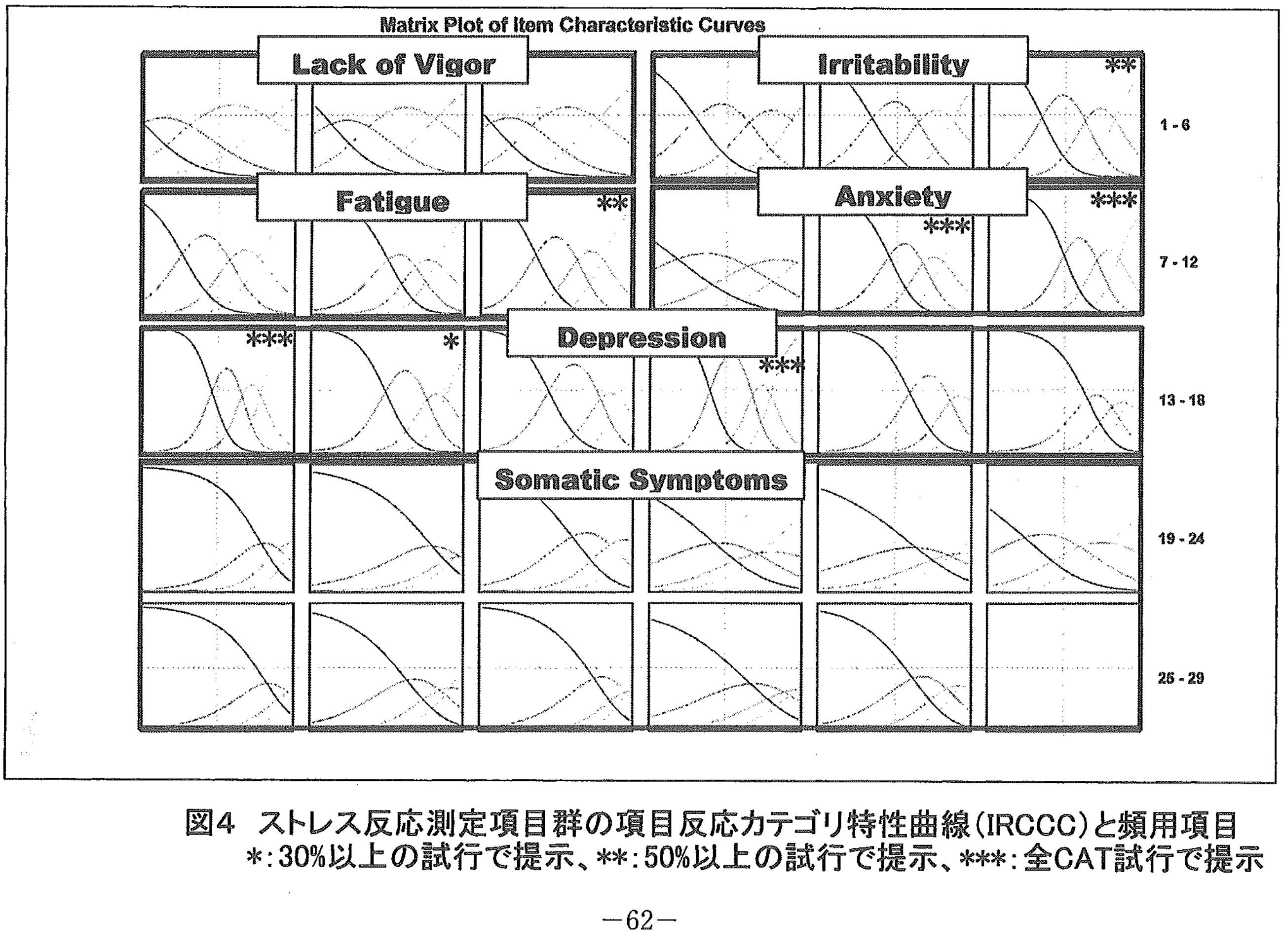


図4　ストレス反応測定項目群の項目反応カテゴリ特性曲線(IRCCC)と頻用項目
*:30%以上の試行で提示、**:50%以上の試行で提示、***:全CAT試行で提示

表1　ストレス測定CATの収束までの提示項目数

提示項目数	収束回答者数	%	累積%
7	1	2.9	2.9
8	13	38.2	41.2
9	8	23.5	64.7
10	5	14.7	79.4
11	1	2.9	82.4
13	4	11.8	94.1
18	2	5.9	100.0
合計	34	100	

表2　CATシステムの評価指標とストレス反応各項目回答・回答時間との相関係数

	N	年齢	項目数	ストレスレベル（θ値）	ストレス反応回答時間	全尺度での平均回答時間
項目数	34	-.38 *	—			
ストレスレベル（θ値）	34	.13	-.50 **	—		
ストレス反応回答時間	34	-.45 **	.74 **	-.22	—	
平均回答時間（全尺度）	34	-.23	.42 *	-.06	.77 **	—
回答（最近1ヶ月間、1:ほとんどなかった～4:ほとんどいつも）						
1 活気がわく（逆転項目）	34	-.09	.10	.16	.35 *	.24
2 元気いっぱい（逆転項目	34	.13	-.24	.48 **	.00	.07
3 生き生き（逆転項目）	34	-.06	-.18	.35 *	.01	-.07
5 腹立	5	.77	-.17	-.73	-.72	-.87 +
6 イライラ	29	.36 +	-.62 **	.49 **	-.40 *	-.19
7 ひどく疲れた	7	-.06	-.14	.65	-.28	-.29
8 へとへと	4	-.52	-.71	.91 +	.05	.31
9 だるい	23	-.07	-.09	.71 **	.16	.13
11 不安だ	34	.29	-.51 **	.41 *	-.39 *	-.31 +
12 落ち着かない	34	.05	-.41 *	.70 **	-.28	-.16
13 憂うつだ	34	.11	-.45 **	.82 **	-.30 +	-.11
14 面倒だ	11	-.58 +	.04	.67 *	.52 +	.68 *
15 集中できない	7	-.44	-.02	.72 +	.41	.57
16 気分が晴れない	34	.01	-.20	.80 **	.04	.15
回答時間						
1 活気がわく	34	.03	-.12	.27	-.05	.09
2 元気いっぱい	34	.00	.09	-.31 +	.21	.50 **
3 生き生き	34	-.03	.03	-.26	.16	.48 **
5 腹立	5	-.27	-.56	.04	-.07	.27
6 イライラ	29	-.29	.55 **	-.11	.90 **	.78 **
7 ひどく疲れた	7	-.15	-.20	-.31	-.03	.23
8 へとへと	4	-.30	-.71	.94 +	-.15	.08
9 だるい	23	-.19	.20	-.39 +	.16	.35 +
11 不安だ	34	-.15	.06	.02	.22	.27
12 落ち着かない	34	-.11	.03	.24	.21	.45 **
13 憂うつだ	34	-.36 *	.45 **	-.06	.86 **	.66 **
14 面倒だ	11	-.58 +	.48	-.27	.42	.38
15 集中できない	7	-.73 +	.56	.12	.94 **	.84 *
16 気分が晴れない	34	-.39 *	.55 **	-.06	.94 **	.72 **

+, *, and **: p < .10, p < .05, and p < .01, respectively.

表3　CATシステムの評価指標と労働状況・ソーシャルサポート各項目回答および回答時間との関連性　（相関係数）

	年齢	ストレスレベル（θ値）	ストレス反応回答時間	全尺度での平均回答時間	過重労働状況	過重労働状況回答時間	ソーシャルサポート	ソーシャルサポート回答時間
過重労働状況	.08	.70 **	-.23	-.19	—			
過重労働状況回答時間	-.04	.09	.32 +	.78	-.01	—		
ソーシャルサポート	-.25	-.10	-.03	-.04	.11	.00	—	
ソーシャルサポート回答時間	-.01	-.08	.47 **	.86 **	-.30 +	.69 **	-.08	—
過重労働状況回答（最近1ヶ月間、1:なかった～4:非常に多かった）								
1 夜10時以降に帰宅すること	-.03	.52 **	-.21	-.06	.80 **	.20	.14	-.15
2 休日に仕事に出ること	.16	.31 +	-.07	-.12	.67 **	.05	.16	-.24
3 家に仕事を持ち帰ること	.12	.35 *	-.31 +	-.40 *	.72 **	-.26	.32 +	-.44 **
4 宿泊を伴う出張に出ること	-.04	.23	-.12	-.21	.42 *	-.11	-.03	-.27
5 仕事のことで悩む	-.18	.41 *	.40 *	.37 *	.39 *	.16	.00	.30 +
6 睡眠時間が不足していること	-.07	.42 *	-.29	-.26	.44 **	-.15	-.09	-.36 *
7 家にいても仕事のことが気になって仕方がない	.22	.68 **	-.37 *	-.19	.76 **	.06	.27	-.11
8 家でゆっくりくつろいでいること（逆転項目）	.21	.41 *	.01	.00	.50 **	-.04	-.36 *	-.08
過重労働状況回答時間								
1 夜10時以降に帰宅すること	.17	-.05	.15	.61 **	-.05	.78 **	-.13	.63 **
2 休日に仕事に出ること	-.09	-.02	.26	.60 **	-.04	.77 **	.07	.56 **
3 家に仕事を持ち帰ること	-.02	.25	.10	.44 **	.14	.81 **	-.07	.24
4 宿泊を伴う出張に出ること	-.23	.20	.50 **	.64 **	.13	.76 **	-.02	.35 *
5 仕事のことで悩む	-.05	.22	.27	.58 **	.00	.67 **	.09	.52 **
6 睡眠時間が不足していること	-.03	.22	.09	.44 *	-.05	.54 **	.18	.47 **
7 家にいても仕事のことが気になって仕方がない	-.15	-.04	.09	.38 *	-.04	.68 **	.14	.25
8 家でゆっくりくつろいでいること（逆転項目）	.00	-.04	.42 *	.72 **	-.12	.54 **	-.10	.75 **
ソーシャルサポート回答（1:非常に～4:まったくない）								
1 職場の上司・同僚（含、部下）に気軽に話ができる	-.02	.15	-.27	-.28	.34 *	-.03	.57 **	-.35 *
2 配偶者や家族・友人に気軽に話ができる	-.16	.04	.04	.06	.20	.00	.66 **	.03
3 困った時、職場の上司・同僚は頼りになる	-.21	-.15	-.16	-.09	-.05	.06	.64 **	-.05
4 困った時、配偶者や家族・友人は頼りになる	-.23	-.22	.16	.23	-.12	.15	.77 **	.21
5 個人的な問題を職場の上司・同僚に相談できる	-.15	-.05	-.15	-.21	.14	-.07	.72 **	-.19
6 個人的な問題を配偶者や家族・友人に相談できる	-.25	-.21	.28	.13	-.11	-.09	.66 **	.03
ソーシャルサポート回答時間								
1 職場の上司・同僚（含、部下）に気軽に話ができる	.12	-.15	.56 **	.76 **	-.16	.53 **	-.01	.76 **
2 配偶者や家族・友人に気軽に話ができる	.13	-.05	.35 *	.71 **	-.22	.58 **	-.08	.84 **
3 困った時、職場の上司・同僚は頼りになる	-.09	.02	.26	.74 **	-.14	.89 **	.00	.74 **
4 困った時、配偶者や家族・友人は頼りになる	-.21	.16	.37 *	.59 **	-.13	.41 *	-.02	.67 **
5 個人的な問題を職場の上司・同僚に相談できる	-.11	-.18	.35 *	.59 **	-.35 *	.42 *	-.12	.74 **
6 個人的な問題を配偶者や家族・友人に相談できる	.04	.02	.17	.53 **	-.23	.37 *	-.10	.76 **

+, *, and **: $p < .10$, $p < .05$, and $p < .01$, respectively.

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kawakami N, Tsutsumi A, Haratani T, Kobayashi F, Ishizaki M, Hayashi T, Fujita O, Aizawa Y, Miyazaki S, Hiro H, Masumoto T, Hashimoto S, Araki S.	Job Strain, Worksite Support, and Nutrient Intake among Employed Japanese Men and Women	Journal of Epidemiology	16(2)	79-89	2006
Kondo K , Kobayashi Y , Hirokawa K, Tsutsumi A , Kobayashi F, Haratani T, Araki S, Kawakami N.	Job strain and sick leave among Japanese employees: A longitudinal study.	International Archives of Occupational and Environmental Health	79(3)	213-219	2006
Kobayashi Y, Hirose T, Tada Y, Tsutsumi A, Kawakami N.	Relationship between two job stress models and coronary risk factors among Japanese part-time female employees of a retail company	Journal of Occupational Health	47(3)	201-210	2005
Tsutsumi A.	Psychosocial factors and health: Community and workplace study	Journal of Epidemiology	15(3)	65-69	2005
Kayaba K, Tsutsumi A, Gotoh T, Ishikawa S, Miura Y	Five-year stability of job characteristics scale scores among a Japanese working population	Journal of Epidemiology	15(6)	228-234	2005

Maeno N, Kusunoki K, Kitajima T, Iwata N, Ono Y, Hashimoto S, Imai M, Li L, Kayukawa Y, Ohta T, Ozaki N	Personality of seasonal affective disorder analyzed by Tri-dimensional Personality Questionnaire	J Affect Disord	85 (3)	267-273	2005
Miura H, Qiao H, Kitagami T, Ohta T, Ozaki N	Effects of fluvoxamine on levels of dopamine, serotonin, and their metabolites in the hippocampus elicited by isolation housing and novelty stress in adult rats	Int J Neurosci	115 (3)	367-378	2005
Kanazawa M, Endo M, Yamaguchi K, Hamaguchi T, Whitehead WE, Itoh M, Fukudo S.	Classical conditioned response of rectosigmoid motility and regional cerebral activity in humans	Neuro-gastroenterol Motil	17	705-713	2005
Fukudo S, Saito K, Sagami Y, Kanazawa M.	Can modulating corticotropin releasing hormone receptors alter visceral sensitivity?	Gut	55	146-148	2006
Saito K, Kasai T, Nagura Y, Ito H, Kanazawa M, Fukudo S.	Corticotropin-releasing hormone receptor 1 antagonist blocks brain-gut activation induced by colonic distention in rats	Gastroenterology	129	1533-1543	2005
Kimura K, Isowa T, Ohira H	Temporal variation of acute stress responses in sympathetic nervous and immune systems	Biol Psychol	70(2)	131-139	2005
Isowa T, Ohira H, Murashima M	Immune, endocrine and cardiovascular responses to controllable and uncontrollable acute stress	Biol Psychol	71(2)	202-213	2005

Original Article

Job Strain, Worksite Support, and Nutrient Intake among Employed Japanese Men and Women

Norito Kawakami,[1] Akizumi Tsutsumi,[1] Takashi Haratani,[2] Fumio Kobayashi,[3] Masao Ishizaki,[4] Takeshi Hayashi,[5] Osamu Fujita,[6] Yoshiharu Aizawa,[7] Shogo Miyazaki,[8] Hisanori Hiro,[9] Takeshi Masumoto,[10] Shuji Hashimoto,[11] and Shunichi Araki.[2]

BACKGROUND: The association of job strain (as defined by the job demands/control model) and worksite support with nutrient intake is not clear.
METHODS: A questionnaire survey was conducted of 25,104 workers employed in nine companies in Japan. Job strain and worksite support were assessed using the Job Content Questionnaire. Daily intake of 17 nutrients was measured using a dietary history questionnaire. Data from 15,295 men and 2,853 women were analyzed, controlling for age, education, marital status, occupation, and study site.
RESULTS: Among men, job strain was positively associated with average daily intakes of fat, vitamin E, cholesterol, poly- and mono-unsaturated fatty acids (p for trend<0.05), and worksite support was positively associated with average daily intakes of total energy, crude fiber, retinol, carotene, vitamins A, C, and E, cholesterol, and saturated fatty acid (p for trend<0.05). Among women, worksite support was positively associated with average daily intakes of total energy, protein, vitamin E, and polyunsaturated fatty acid (p for trend<0.05). However these differences were generally small.
CONCLUSIONS: The present study showed that job strain and worksite support were only weakly and inconsistently associated with nutritional intakes. It does not seem that changes in nutritional intakes explain the association between job strain or worksite support and coronary heart disease.
J Epidemiol 2006; 16:79-89.

Key words: Coronary Disease, Risk Factors, Dietary Fats, Stress, Social Support, Japan.

Psychological job strain, which is defined as the combination of greater psychological job demands and lower job control in the job strain model,[1,2] has been linked to coronary heart disease (CHD). It has been also associated with several CHD risk factors, such as high blood pressure and, to a lesser extent, serum total cholesterol.[2,3] Job strain has been found to be associated with elevated blood pressure in a non-Western country, i.e., Japan, as well.[4]

Changes in diet, in addition to smoking and drinking, are possible mediating behavior variables linking job strain to CHD.[3] Thus

---

Received July 14, 2005, and accepted November 5, 2005.
[1] Hygiene and Preventive Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry & Pharmaceutical Sciences.
[2] National Institute of Industrial Health.
[3] Aichi Medical University.
[4] Kanazawa Medical University.
[5] HITACHI Information & Telecomunication Systems Shinkawasaki Health Care Center.
[6] Kariya General Hospital Eastern Division.
[7] Kitasato University School of Medicine.
[8] Meiji University Law School.
[9] Adecco Health Support Center.
[10] Mitsubishi Chemical Corporation
[11] Fujita Health University School of Medicine.
Address for correspondence to: Prof. Norito Kawakami, Hygiene and Preventive Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry & Pharmaceutical Sciences, 2-5-1 Shikata-cho, Okayama 700-8558, Japan. (e-mail: norito@md.okayama-u.ac.jp)

far, only a few studies have been conducted to clarify the association between job strain and diet. Hellerstedt and Jeffery found that men who reported high job strain had significantly greater calorie intake from high-fat food items.[5] A consistent pattern was also observed in a recent study of a Japanese rural population: job strain was significantly and positively associated with meat consumption among men with non-agricultural occupations.[6] The same study also indicated that vegetable consumption was lower in workers with high job strain, while another study found that job strain was not significantly associated with fruit or vegetable consumption.[7]

These previous studies[5-7] examined only gross food consumption and associations with job strain, and none used a dietary history questionnaire to measure nutrient intake. While fat consumption was associated with CHD risk, saturated fat has been recognized as a major factor for CHD,[8] and other types of fat, such as poly- and monounsaturated fatty acids, have not been associated with CHD and may in fact even provide protection against CHD risk.[8,9] Cholesterol and salt are also important dietary elements that have been associated with CHD risk.[8] Some studies have reported that protein, fiber, and several antioxidants (carotene, vitamins C and E) were protective against CHD.[9] The question of whether job strain is associated with the consumption of fat components, cholesterol, salt, and some other micronutrients such as vitamins should be examined, and further research on food items such as high-fat foods, vegetables, and fruits should be conducted in order to clarify the mediating role in the link between job strain and CHD.

Epidemiologic studies have also suggested that worksite support (i.e., social support at work) is inversely associated with CHD, either as a main effect or a buffering effect against job strain,[10-12] although there was a study that failed to show such an effect.[13] Other studies have reported that low worksite support was associated with increased blood pressure[14,15] and hyperlipidemia[16] although these findings are somewhat conflicting. Differences in diet may be responsible for the link between worksite support and CHD. To date, only one study has examined the relationship, and it found no significant association between worksite support (or its interaction with job strain) and the consumption of vegetables or fruit,[7] while social interaction in general has been positively associated with vegetable and fruit intake.[17,18]

In order to examine the possible mediating role of dietary differences linking job strain and worksite support to CHD, in this study we analyzed data from a baseline survey of a large-scale prospective cohort study of employed men and women in Japan, called the Japan Work Stress and Health Cohort (JSTRESS) Study. More specifically, we investigated the association of job strain and worksite support with the consumption of 17 selected nutrients, including fat components, cholesterol, salt and vitamins, while controlling for other relevant factors.

METHODS

Subjects

A total of nine companies and factories located in the Kanto (East Japan) and Chubu (Central Japan) areas of Japan were selected as study sites of the JSTRESS Study.[19] These sites were a light-metal factory, three electrical factories, two steel factories, a heavy-metal factory, a manufacturing factory, and an automobile factory. A total of 29,471 employees were invited to participate in the study, and a written consent was obtained. Recruitment strategies were slightly different among study sites. All employees at four study sites were invited to participate in the study, while at three other study sites employees who attended a compulsory health checkup over a certain period were invited to participate. At another study site, only men who attended a compulsory health checkup were invited to participate. Finally, at one study site, all supervisors and managers were invited to participate. The surveys were conducted from April 1996 through May 1998. A total of 25,104 questionnaires were returned, and the response rate ranged from 43% to 100% at the study sites, with the average being 85%. We excluded 3,026 responses from one study site that were collected during the health checkups that took place between June and November 1997 (80% of the respondents from the site) because the questionnaire distributed during that period lacked job stressor scales due to an editorial mistake. Furthermore, 3,739 participants were excluded (17% of the eligible 22,078 respondents) because one or more of the items in the questionnaire had not been answered. In total, therefore, data from 18,148 respondents (15,295 men and 2,853 women) were analyzed in the final analysis.

Assessment of Job Strain and Worksite Support

Job strain and worksite support were measured by using the scales of the Job Content Questionnaire (JCQ): job demands, job control, and worksite social support.[20,21] The Japanese version of the scales had shown acceptable levels of reliability and validity in a previous study.[22] Cronbach's alpha reliability coefficients for the scales ranged from 0.61 to 0.89 for men and from 0.65 to 0.87 for women. In addition, the scales showed factor-based validity, with distributions of the scale scores across age groups and occupations being in an expected direction.[22] Job strain ratio was calculated as a ratio of job demands to job control. The ratio was multiplied by 2 to adjust for the difference in scoring ranges between the job demand scale (12-48) and the job control scale (24-96). This job strain ratio has been used in seven previous studies that yielded significant associations of job strain with myocardial infarction and CHD risk factors.[3,23] We used a total score of worksite social support by adding the scores of supervisor support and coworker support, as well as each of the two above scale scores because they were closely correlated (r=0.44). The correlation between the job strain ratio and the worksite social support score was moderate (r=-0.26 for men and r=-0.24 for women). Distributions of the JCQ scores are shown by gender in Table 1.

The subjects were classified into four quartiles (lowest, second-lowest, second-highest, and highest) based on a gender-specific distribution of job strain and worksite support (see Appendix).

Nutrient Intake

In this study, nutrient intake was assessed using a modified version of a 31-item dietary history questionnaire (DHQ).[24] The original DHQ was developed by shortening a quantitative food frequency questionnaire used for cancer epidemiology in Japan25 and designed to estimate the daily intake of 17 macro and micronutrients in a Japanese population according to the 4th edition of the Standard Tables of Food Composition in Japan26 (see Table 1). The original DHQ24 consisted of questions about the average frequency of consumption and the average portion size of 31 selected food items during the past year. Questions concerning portion size were deleted in this study in order to make the task easier for respondents. In place of these questions, a gender-specific average portion for each item was used so that nutrient intake could be estimated. This modified version of the DHQ still had moderate to high validity when compared with estimated nutritional intakes based on 12 one-day dietary records over one-year period among 37 volunteers (Takatsuka, Shimizu, Kawakami, et al., unpublished data). Spearman's partial correlation coefficients (r_s) adjusted for gender between the DHQ and the three-day records were high (r_s=0.40-0.59) for crude fiber, calcium, vitamins C, D, and E, and salt; moderate (r_s=0.25-0.39) for total energy, protein, carbohydrates, calcium, carotene, cholesterol, and saturated and polyunsaturated fatty acid; and relatively low (r_s=0.15-0.24) for retinol, vitamin A, and monounsaturated fatty acid (Takatsuka, Shimizu, Kawakami, et al., unpublished data). Comparisons of the estimated average values with those from the three-day records indicated that the DHQ overestimated vitamin C (+112%), retinol (+58%), carotene (+52%), and crude fiber (+16%). Otherwise, differences in estimated averages between the DHQ and the three-day records were within 10% (Takatsuka, Shimizu, Kawakami, et al., unpublished data).

After logarithmic transformation, nutrient intake was adjusted for total energy intake by using the method proposed by Willett[27] and applying a linear regression method. The distributions of nutrient intakes by gender are shown in Table 1.

Other Covariates

Other covariates included age, education, marital status, and occupation, which are possible determinants of job strain, worksite support,[2] or nutrition intake.[28] The questionnaire was used to collect this information. Three age categories were used: 18-34, 35-44, and 45-60 years old. Nine occupational categories, defined according to the International Standardized Classification of Occupations 1988, were used: managers, professionals, technicians, clerks, service and sales workers, craft and other skilled workers, machine operators and assemblers, and laborers. Two categories were used for education level: 12 years or less and 13 years or more. Two categories were used for marital status: married and not married (single, divorced, or widowed). In addition, eight dummy variables were designed to adjust for the differences among the nine study sites in a multivariate analysis. A chronic condition was defined as one receiving medical treatment for any of the following conditions: hypertension, diabetes, hyperlipidemia, cancer, CHD, and stroke. A total of 657 (4.3%) men and 60 (2.1%) women had a chronic condition.

Statistical Analysis

The 17 dietary nutrient intakes (log transformed values) were compared among the quartiles of job strain and worksite support. The averages and their 95% confidence intervals were calculated based on the distribution of the log-transformed values and are shown in Tables after anti-log transformation. Statistical differences among the quartiles of job strain and worksite support were tested using an analysis of covariance (ANCOVA) controlling for age. The linear trend was also tested controlling for age.

In order to examine the unique association of job strain and worksite support to nutrient intakes, we conducted an ANCOVA for each of the 17 nutrient intakes on the quartiles of job strain (or job demands and job control) or worksite social support, controlling for age group, education, marital status, occupation category, and study sites. The significance for a linear trend between job strain or worksite support and nutritional intake was tested by assigning consecutive numbers (1-4) to the quartiles. Similar ANCOVAs were conducted for those who did not report a chronic condition (14,638 men and 2,793 women) in order to confirm findings among a "healthy" population. These statistical analyses were conducted using SAS® package version 6.14 on a PC. [29]

RESULTS

Job Strain and Nutrient Intake

Among men (Table 2, top), job strain was significantly and positively associated with fat, salt, and poly- and monounsaturated-fatty acid intakes, while it was significantly and negatively associated with intakes of carbohydrate, crude fiber, calcium, carotene, and vitamin C. Among women (Table 2, bottom), job strain was significantly and positively associated with retinol intake.

Worksite Support and Nutrient Intake

Among men (Table 3, top), worksite support was significantly and positively associated with total energy and intakes of crude fiber, calcium, retinol, carotene, vitamins A, C, and E, and saturated fatty acid. Among women (Table 3, bottom), worksite support was significantly and positively associated with total energy and intakes of protein, crude fiber, carotene, vitamins C and E, and polyunsaturated fatty acid.

Multivariate Analysis

Among men (Table 4, top), job strain was significantly and positively associated with intakes of fat, vitamin E, cholesterol, and poly- and monounsaturated fatty acid after controlling for other

Table 1. Averages and standard deviations (SDs) (or Q1 and Q3 values) of age, estimated nutrient intake, and job stressor variables among men and women: Baseline data of The Japan Work Stress and Health Cohort Study (1996-1998).

	Men (n=15,295)				Women (n=2,853)			
	Mean	SD	Q1	Q3	Mean	SD	Q1	Q3
Age (year)	40.8	8.8			36.3	10.5		
Nutrient intake*								
Total energy (kcal)	2242		1911		2008		1700	2376
Protein (g)	84.2		79.5	2613	89.6		85.2	94.1
Fat (g)	57.1		52.3	89.0	61.9		57.4	66.0
Carbohydrate (g)	315.7		304.6	62.1	316.5		306.3	328.8
Crude fiber (g)	4.56		3.95	331.0	5.02		4.35	5.67
Calcium (mg)	604.5		514.2	5.15	728.0		625.3	843.2
Retinol (μg)	369.2		195.1	702.5	299.4		202.4	390.7
Carotene (μg)	3855.3		3001.1	596.1	4686.3		3660.7	5943.3
VA (IU)	3257.9		2538.9	4848.6	3467.4		2741.2	4291.6
VC (mg)	134.2		105.0	4134.1	152.4		121.1	189.9
VD (IU)	88.4		69.2	169.3	99.8		77.5	126.4
VE (mg)	7.66		6.96	109.8	8.48		7.76	9.19
Salt (g)	12.5		11.5	8.38	13.9		12.8	15.0
Cholesterol (mg)	290		246	13.5	310		268	354
Saturated fatty acid (g)	12.4		11.1	339	13.3		11.8	14.6
Polyunsaturated fatty acid (g)	13.4		12.4	13.7	14.1		13.0	15.2
Monounsaturated fatty acid (g)	16.8		15.1	14.5	17.8		16.3	19.2
				18.4				
Job stressor score:								
Job demands	32.8	5.2			31.5	5.2		
Job control	67.5	10.9			59.0	10.4		
Job strain†	1.00	0.24			1.11	0.32		
Supervisor support	10.8	2.2			10.5	2.4		
Coworker support	11.2	1.6			11.0	1.7		
Worksite support	22.0	3.2			21.6	3.4		

* : Nutrient intake (excluding total energy) was adjusted for total energy after logarithm transformation of crude values by the method of Willett (1990). Geometric means, Q1 (lower 25%), and Q3 (upper 25%) values were shown for nutrient intake.

† : Job strain = job demands / job control × 2

Table 2. Average daily intakes of 17 nutrients* by the quartiles of job strain among employed men and women in Japan: Baseline data of The Japan Work Stress and Health Cohort (JSTRESS) Study (1996-1998).

	Job strain†								
	1=low		2		3		4=high		
	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	P for trend‡
					Men				
n	3794		3838		3770		3893		
Total energy (kcal)	2243	(2226 - 2261)	2242	(2224 - 2260)	2238	(2220 - 2256)	2244	(2225 - 2264)	0.774
Protein (g)	84.1	(83.9 - 84.4)	84.3	(84.1 - 84.5)	84.1	(83.8 - 84.3)	84.2	(83.9 - 84.4)	0.270
Fat (g)	56.6	(56.3 - 56.8)	57.1	(56.9 - 57.4)	57.2	(57.0 - 57.5)	57.6	(57.4 - 57.9)	<0.001
Carbohydrate (g)	316.4	(315.7 - 317.1)	315.6	(314.9 - 316.3)	315.5	(314.7 - 316.2)	315.4	(314.7 - 316.2)	0.009
Crude fiber (g)	4.59	(4.56 - 4.62)	4.59	(4.56 - 4.62)	4.54	(4.52 - 4.57)	4.51	(4.48 - 4.54)	<0.001
Calcium (mg)	609.6	(605.2 - 614.0)	607.6	(603.2 - 612.0)	602.6	(598.3 - 607.0)	598.5	(594.2 - 603.0)	0.007
Retinol (μg)	362.1	(354.1 - 370.2)	367.1	(359.1 - 375.3)	374.8	(366.3 - 383.4)	372.8	(364.1 - 381.7)	0.240
Carotene (μg)	3918.7	(3874.2 - 3963.8)	3904.7	(3860.5 - 3949.3)	3843.0	(3799.2 - 3887.2)	3758.8	(3715.6 - 3802.5)	<0.001
VA (IU)	3261.4	(3224.0 - 3299.1)	3272.5	(3235.7 - 3309.8)	3267.4	(3229.7 - 3305.5)	3231.0	(3191.5 - 3270.9)	0.061
VC (mg)	135.9	(134.3 - 137.4)	135.5	(134.0 - 137.1)	133.5	(132.0 - 135.0)	131.9	(130.3 - 133.5)	<0.001
VD (IU)	89.1	(88.1 - 90.1)	89.1	(88.2 - 90.1)	88.2	(87.2 - 89.2)	87.1	(86.1 - 88.1)	0.405
VE (mg)	7.65	(7.61 - 7.68)	7.68	(7.65 - 7.72)	7.66	(7.62 - 7.69)	7.65	(7.62 - 7.69)	0.979
Salt (g)	12.4	(12.4 - 12.5)	12.5	(12.5 - 12.5)	12.5	(12.4 - 12.5)	12.5	(12.4 - 12.5)	0.002
Cholesterol (mg)	288	(286 - 291)	290	(288 - 292)	290	(288 - 292)	291	(289 - 293)	0.142
Saturated fatty acid (g)	12.3	(12.3 - 12.4)	12.4	(12.3 - 12.4)	12.4	(12.3 - 12.4)	12.4	(12.3 - 12.5)	0.773
Polyunsaturated fatty acid (g)	13.4	(13.3 - 13.5)	13.4	(13.4 - 13.5)	13.4	(13.4 - 13.5)	13.5	(13.5 - 13.6)	0.004
Monounsaturated fatty acid (g)	16.6	(16.5 - 16.7)	16.8	(16.7 - 16.8)	16.8	(16.7 - 16.9)	16.9	(16.8 - 17.0)	0.002
					Women				
n	704		708		727		714		
Total energy (kcal)	1980	(1941 - 2020)	2040	(1999 - 2081)	2003	(1965 - 2041)	2009	(1968 - 2051)	0.678
Protein (g)	89.4	(88.9 - 89.9)	89.4	(88.9 - 89.9)	90.1	(89.6 - 90.6)	89.4	(88.9 - 90.0)	0.945
Fat (g)	61.8	(61.3 - 62.4)	61.9	(61.4 - 62.5)	62.0	(61.5 - 62.5)	61.6	(61.1 - 62.2)	0.953
Carbohydrate (g)	317.5	(316.1 - 318.8)	316.2	(314.9 - 317.6)	316.0	(314.6 - 317.3)	316.4	(314.9 - 317.9)	0.342
Crude fiber (g)	5.07	(5.00 - 5.15)	4.99	(4.91 - 5.06)	5.07	(4.99 - 5.15)	4.97	(4.90 - 5.05)	0.160
Calcium (mg)	729.2	(717.8 - 740.7)	723.6	(712.1 - 735.3)	735.7	(724.0 - 747.5)	723.3	(711.7 - 735.1)	0.550
Retinol (μg)	292.9	(282.3 - 304.0)	302.1	(289.9 - 314.8)	292.5	(281.0 - 304.4)	310.4	(297.5 - 323.9)	0.042
Carotene (μg)	4778.6	(4653.1 - 4907.4)	4627.0	(4504.4 - 4752.9)	4774.7	(4649.1 - 4903.7)	4567.9	(4449.5 - 4689.4)	0.091
VA (IU)	3484.3	(3402.1 - 3568.5)	3442.3	(3358.8 - 3527.9)	3494.7	(3407.3 - 3584.4)	3448.1	(3363.4 - 3534.9)	0.989
VC (mg)	155.5	(151.6 - 159.4)	151.0	(147.4 - 154.8)	153.3	(149.5 - 157.2)	149.9	(146.1 - 153.8)	0.092
VD (IU)	97.2	(94.6 - 99.9)	99.1	(96.4 - 101.8)	103.2	(100.5 - 106.0)	99.5	(96.7 - 102.5)	0.569
VE (mg)	8.50	(8.42 - 8.59)	8.45	(8.37 - 8.53)	8.53	(8.45 - 8.61)	8.45	(8.37 - 8.54)	0.616
Salt (g)	13.8	(13.6 - 13.9)	13.9	(13.7 - 14.0)	14.1	(13.9 - 14.2)	14.0	(13.8 - 14.1)	0.069
Cholesterol (mg)	311	(306 - 316)	306	(301 - 311)	312	(307 - 317)	310	(305 - 315)	0.555
Saturated fatty acid (g)	13.3	(13.2 - 13.5)	13.2	(13.1 - 13.4)	13.2	(13.1 - 13.4)	13.2	(13.1 - 13.4)	0.541
Polyunsaturated fatty acid (g)	14.1	(13.9 - 14.2)	14.1	(14.0 - 14.3)	14.2	(14.1 - 14.3)	14.1	(14.0 - 14.2)	0.630
Monounsaturated fatty acid (g)	17.9	(17.7 - 18.1)	17.8	(17.7 - 18.0)	17.8	(17.6 - 18.0)	17.8	(17.6 - 18.0)	0.926

* : Nutrient intake (excluding total energy) was adjusted for total energy after logarithm transformation of crude values by the method of Willett (1990). Geometric mean and 95% confidence intervals were estimated on the distribution of log transformed value.

† : Job strain was classifed into quartiles. P for diff.: P for difference (d.f=3).

‡ : Adjusted for age.

Table 3. Average daily intakes of 17 nutrients* by the quartile of worksite support among employed men and women in Japan: Baseline data of The Japan Work Stress and Health Cohort (JSTRESS) Study (1996-1998).

	Worksite Support†								
	1=low		2		3		4=high		
	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	Mean	(95% CI)	P for trend‡
					Men				
n	2881		4309		2682		5423		
Total energy (kcal)	2219	(2197 - 2240)	2232	(2216 - 2249)	2225	(2205 - 2246)	2270	(2255 - 2286)	<0.001
Protein (g)	84.2	(83.9 - 84.5)	84.0	(83.8 - 84.2)	83.9	(83.6 - 84.2)	84.4	(84.2 - 84.6)	0.149
Fat (g)	57.2	(56.9 - 57.6)	57.0	(56.8 - 57.3)	57.1	(56.8 - 57.3)	57.2	(57.0 - 57.4)	0.689
Carbohydrate (g)	315.0	(314.1 - 315.9)	316.0	(315.3 - 316.7)	316.0	(315.2 - 316.8)	315.8	(315.2 - 316.4)	0.344
Crude fiber (g)	4.52	(4.49 - 4.56)	4.53	(4.50 - 4.56)	4.53	(4.50 - 4.57)	4.61	(4.59 - 4.64)	<0.001
Calcium (mg)	600.2	(595.1 - 605.4)	603.9	(599.8 - 608.0)	599.1	(594.1 - 604.1)	610.1	(606.4 - 613.8)	0.006
Retinol (μ g)	367.5	(357.7 - 377.7)	365.1	(357.5 - 372.9)	358.8	(349.3 - 368.5)	378.6	(371.4 - 385.8)	0.048
Carotene (μ g)	3772.3	(3720.9 - 3824.5)	3839.6	(3798.3 - 3881.3)	3825.6	(3775.0 - 3876.9)	3927.8	(3890.6 - 3965.4)	<0.001
VA (IU)	3227.0	(3181.5 - 3273.2)	3234.0	(3199.0 - 3269.4)	3195.9	(3152.7 - 3239.7)	3325.1	(3292.9 - 3357.5)	<0.001
VC (mg)	131.7	(129.9 - 133.6)	132.6	(131.1 - 134.0)	133.3	(131.5 - 135.1)	137.2	(135.9 - 138.6)	<0.001
VD (IU)	88.8	(87.6 - 90.1)	87.8	(86.8 - 88.7)	88.0	(86.8 - 89.1)	88.8	(88.0 - 89.6)	0.900
VE (mg)	7.66	(7.62 - 7.70)	7.62	(7.59 - 7.65)	7.64	(7.60 - 7.68)	7.70	(7.68 - 7.73)	0.011
Salt (g)	12.5	(12.4 - 12.6)	12.4	(12.4 - 12.5)	12.4	(12.4 - 12.5)	12.5	(12.4 - 12.5)	0.701
Cholesterol (mg)	290	(287 - 293)	288	(286 - 290)	290	(287 - 292)	291	(289 - 293)	0.087
Saturated fatty acid (g)	12.3	(12.2 - 12.4)	12.4	(12.3 - 12.4)	12.3	(12.2 - 12.4)	12.4	(12.4 - 12.5)	0.017
Polyunsaturated fatty acid (g)	13.5	(13.4 - 13.5)	13.4	(13.4 - 13.5)	13.5	(13.4 - 13.5)	13.4	(13.4 - 13.5)	0.541
Monounsaturated fatty acid (g)	16.8	(16.7 - 16.9)	16.7	(16.6 - 16.8)	16.7	(16.6 - 16.8)	16.8	(16.7 - 16.9)	0.486
					Women				
n	684		507		857		805		
Total energy (kcal)	1988	(1947 - 2029)	1974	(1929 - 2020)	1990	(1955 - 2027)	2066	(2026 - 2106)	0.001
Protein (g)	89.1	(88.6 - 89.7)	89.8	(89.1 - 90.4)	89.4	(88.9 - 89.9)	90.1	(89.6 - 90.6)	0.030
Fat (g)	61.8	(61.2 - 62.3)	62.2	(61.6 - 62.9)	61.8	(61.4 - 62.3)	61.7	(61.2 - 62.2)	0.730
Carbohydrate (g)	316.4	(315.0 - 317.9)	315.5	(313.7 - 317.3)	316.9	(315.7 - 318.2)	316.8	(315.5 - 318.1)	0.537
Crude fiber (g)	4.95	(4.88 - 5.03)	5.05	(4.96 - 5.14)	4.99	(4.92 - 5.06)	5.11	(5.03 - 5.19)	0.015
Calcium (mg)	718.4	(705.9 - 731.1)	740.8	(726.9 - 755.0)	716.7	(706.8 - 726.7)	740.4	(729.6 - 751.3)	0.081
Retinol (μ g)	299.8	(287.7 - 312.5)	306.4	(290.9 - 322.8)	294.6	(284.3 - 305.2)	299.7	(288.9 - 311.0)	0.531
Carotene (μ g)	4545.5	(4419.5 - 4675.0)	4758.0	(4614.1 - 4906.4)	4629.4	(4521.5 - 4740.0)	4826.1	(4705.3 - 4950.0)	0.009
VA (IU)	3387.0	(3299.4 - 3476.9)	3544.5	(3440.0 - 3652.2)	3416.4	(3342.4 - 3492.0)	3544.0	(3464.7 - 3625.1)	0.076
VC (mg)	149.2	(145.4 - 153.1)	154.1	(149.5 - 158.8)	150.4	(147.0 - 153.9)	156.3	(152.7 - 160.0)	0.038
VD (IU)	99.4	(96.5 - 102.3)	98.6	(95.3 - 102.0)	100.3	(97.9 - 102.7)	100.3	(97.7 - 102.9)	0.357
VE (mg)	8.41	(8.33 - 8.49)	8.46	(8.37 - 8.56)	8.48	(8.40 - 8.55)	8.57	(8.49 - 8.65)	0.007
Salt (g)	13.9	(13.8 - 14.0)	13.9	(13.8 - 14.1)	13.9	(13.8 - 14.1)	13.9	(13.8 - 14.0)	0.878
Cholesterol (mg)	306	(301 - 311)	309	(303 - 315)	311	(307 - 316)	311	(307 - 316)	0.084
Saturated fatty acid (g)	13.2	(13.0 - 13.3)	13.4	(13.2 - 13.6)	13.1	(13.0 - 13.3)	13.3	(13.2 - 13.5)	0.781
Polyunsaturated fatty acid (g)	14.0	(13.9 - 14.2)	14.1	(13.9 - 14.2)	14.2	(14.1 - 14.3)	14.2	(14.1 - 14.3)	0.042
Monounsaturated fatty acid (g)	17.8	(17.6 - 17.9)	17.9	(17.7 - 18.2)	17.8	(17.7 - 18.0)	17.8	(17.7 - 18.0)	0.799

* : Nutrient intake (excluding total energy) was adjusted for total energy after logarithm transformation of crude values by the method of Willett (1990). Geometric mean and 95% confidence intervals were estimated on the distribution of log transformed value.

† : Worksite support was classifed into quartiles. P for diff.: P for difference (d.f=3).

‡ : Adjusted for age.

Table 4. Association of job strain and worksite support with daily intakes of 17 nutrients among employed men and women in Japan: Analysis of covariance (ANCOVA) of each nutrient intake on age, education, marital status, occupation, study site, job strain, and worksite support using baseline data of The Japan Work Stress and Health Cohort (JSTRESS) Study (1996-1998).

	Job Strain†					Worksite Support†				
Dietary intake*	1=low	2	3	4=high	p for trend	1=low	2	3	4=high	p for trend
					Men (n=15295)					
Total energy (kcal)	2176	2178	2180	2193	0.339	2166	2177	2168	2216	<0.001
Protein (g)	84.1	84.4	84.2	84.4	0.131	84.3	84.1	84.1	84.5	0.119
Fat (g)	57.6	58.0	58.1	58.3	<0.001	58.0	57.9	58.0	58.1	0.172
Carbohydrate (g)	315.9	315.1	315.0	315.2	0.252	314.8	315.5	315.5	315.4	0.616
Crude fiber (g)	4.58	4.60	4.57	4.58	0.675	4.58	4.56	4.56	4.63	0.001
Calcium (mg)	610.8	612.8	609.7	611.8	0.853	610.2	612.1	606.5	616.4	0.079
Retinol (μg)	393.1	397.5	405.3	397.9	0.404	398.0	396.3	390.1	409.5	0.019
Carotene (μg)	3882.7	3903.7	3865.4	3871.2	0.528	3852.7	3877.0	3849.8	3944.1	0.003
VA (IU)	3340.8	3365.5	3370.3	3361.4	0.495	3357.8	3347.7	3305.1	3428.5	0.003
VC (mg)	135.9	136.5	135.2	135.7	0.792	134.9	134.8	135.1	138.7	<0.001
VD (IU)	83.9	84.4	83.8	83.3	0.204	84.2	83.4	83.6	84.2	0.848
VE (mg)	7.65	7.70	7.68	7.71	0.035	7.70	7.65	7.67	7.73	0.036
Salt (g)	12.2	12.3	12.3	12.3	0.100	12.3	12.3	12.3	12.3	0.756
Cholesterol (mg)	287	289	289	290	0.015	288	287	289	290	0.039
Saturated fatty acid (g)	12.6	12.7	12.7	12.7	0.064	12.6	12.7	12.6	12.7	0.022
Polyunsaturated fatty acid (g)	13.4	13.4	13.4	13.5	0.012	13.4	13.4	13.5	13.4	0.785
Monounsaturated fatty acid (g)	17.0	17.1	17.1	17.2	0.001	17.1	17.0	17.1	17.1	0.151
					Women (n=2853)					
Total energy (kcal)	1991	2040	1996	2020	0.813	1991	1978	1996	2083	0.001
Protein (g)	91.0	91.0	91.6	91.2	0.408	90.7	91.4	91.0	91.7	0.045
Fat (g)	62.6	62.9	62.9	62.5	0.718	62.5	63.0	62.7	62.7	0.987
Carbohydrate (g)	314.4	313.3	313.2	313.7	0.538	314.0	312.8	314.0	313.8	0.770
Crude fiber (g)	5.40	5.30	5.40	5.40	0.906	5.30	5.40	5.30	5.40	0.070
Calcium (mg)	774.4	770.9	785.1	778.6	0.298	766.4	789.9	764.3	788.7	0.127
Retinol (μg)	312.7	324.9	314.5	326.9	0.248	316.2	325.6	316.9	320.2	0.920
Carotene (μg)	5374.5	5278.4	5493.1	5360.8	0.577	5262.4	5469.2	5282.2	5494.8	0.067
VA (IU)	3864.7	3864.4	3947.9	3926.7	0.209	3817.6	3987.4	3835.6	3965.3	0.121
VC (mg)	167.1	163.3	166.1	163.7	0.510	162.4	167.3	162.5	168.0	0.148
VD (IU)	96.5	95.9	98.8	96.2	0.708	96.5	96.3	97.1	97.4	0.447
VE (mg)	8.8	8.8	8.9	8.8	0.718	8.7	8.8	8.8	8.9	0.020
Salt (g)	13.8	13.9	14.0	14.0	0.086	13.8	14.0	14.0	13.9	0.484
Cholesterol (mg)	317	314	321	319	0.270	313	317	320	320	0.051
Saturated fatty acid (g)	13.7	13.7	13.7	13.7	0.883	13.6	13.9	13.6	13.8	0.812
Polyunsaturated fatty acid (g)	14.1	14.2	14.2	14.2	0.553	14.0	14.1	14.2	14.2	0.022
Monounsaturated fatty acid (g)	18.1	18.2	18.2	18.1	0.904	18.0	18.2	18.2	18.1	0.656

* : Nutrient intake (excluding total energy) was adjusted for total energy after a logarithm transformation of the crude values by the method described by Willett (1990). A log 10-transformed value for each dietary intake was used as a dependent variable in the ANCOVA. An antilog value of estimated least square means is shown.

† : Job strain and worksite support were classifed into quartiles. P for diff.: P for difference (d.f=3).

covariates, including worksite support; however, the differences were generally small (0.7 g/day, 0.06 mg/day, 3 mg/day, 0.1 g/day and 0.2 g/day, respectively, between the highest and lowest quartiles). Worksite support was significantly and positively associated with total energy and intakes of crude fiber, retinol, carotene, vitamins A, C and E, cholesterol, and saturated fatty acid; however, the differences were again small (50 kcal/day, 0.05 g/day, 11.5 μg /day, 91.4μg /day, 70.7 IU/day, 3.8 mg/day, 0.03 mg/day, 2 mg/day, and 0.1 g/day, respectively, differences between the highest and lowest quartiles). Among women (Table 4, bottom), job strain was not significantly associated with any nutrient, after controlling for other covariates. Worksite support was significantly and positively associated with total energy and intakes of protein, vitamin E, and polyunsaturated fatty acid; the differences tended to be small (92 kcal/day, 1.0 g/day, 0.2 mg/day, and 0.2 g/day, respectively, between the highest and lowest quartiles). Moreover, for both men and women, when an interaction term was added to the model (df=9) between job strain and worksite support, it was not significantly associated with the consumption of any of the 17 nutrients ($p>0.05$).

When the quartiles of job demands and job control, in place of those of job strain, were added to a similar ANCOVA, for men, job demands were significantly and positively associated with the total energy, fat, crude fiber, carotene, vitamins A and E intakes (p for trend <0.05). Also for men, job control was significantly and positively associated with total energy, crude fiber, calcium, carotene, and vitamin C (p for trend <0.05); job control was significantly and negatively associated with fat, and poly- and monosaturated fatty acid intakes (p for trend <0.05). For women, job demands were significantly and positively associated with salt intake (p for trend <0.05).

These results were replicated by similar ANCOVAs among those who did not report any chronic medical condition (14,638 men and 2,793 women).

DISCUSSION

Our study was the first to investigate the association between job strain, worksite social support and the intake of various nutrients. The study indicated that fat intake, and in particular poly- and monounsaturated fat intake, was significantly greater among employed men with a high degree of job strain, after controlling for age, education, marital status, occupation, and worksite support. Previous studies have also reported that job strain was positively associated with the intake of fat-rich foods among men in the US[5] and with meat consumption in rural Japan when limited to non-agricultural occupations.[6] However, in our study, the association between job strain and the intake of saturated fatty acid, which has been to be strongly associated with CHD,[8] was only marginally significant in men. Our study indicated, rather, that job strain was significantly and positively associated with the intake of poly- and monounsaturated fatty acids that have some protective effects against CHD.[9] Our findings do not support a hypothesis that fat intake may explain the link between job strain and CHD. However, the composition of fat associated with job strain may depend on the availability of fatty foods in a particular study area. A further replication study is therefore needed to address the association between job strain and the composition of fat in other countries.

Cholesterol intake was also greater among men under high job strain. Cholesterol is found in foods of animal origin (egg yolk, red meat, and dairy products). Another similar finding[6] suggests that men under high job strain are more likely to prefer animal foods. However, the association of cholesterol intake with serum cholesterol concentration[30] and CHD[31] is usually moderate. It was reported that a change of 200mg/1000kcal in cholesterol consumption could explain the 30% of CHD incidence.[8] The difference in average cholesterol intake per day between the lowest and highest quartiles of job strain was only 3.1 mg/day among men, which may explain the 0.1% of CHD incidence if the figure is applicable. Cholesterol intake may explain the association between job strain and CHD, but the degree seems limited.

Vitamin E intake was greater among men with high job strain. Although the high consumption (200-400 mg/day) of vitamin E has been reported to predict a lower risk of CHD,[32] a later clinical trial failed to show this association.[33] Because the observed difference was small, it does not seem that this level of change in vitamin E intake would have a clinically meaningful effect on CHD. Other vitamins were not associated with job strain in men or women, which is consistent with a previous observation.[7] A previous observation of the association between job strain and little vegetable intake[6] can probably be attributed to the fact that the study was conducted in a rural area where vegetable intake was greater and/or that the study sample was much older than those in the present study and a previous study.[7]

Among women, no significant association was noted between job strain and the consumption of any of the 17 nutrients observed in this study. A previous study reported that there was no significant association among women between job strain and the consumption of foods high in fat.[5] The association of job strain with cardiovascular disease[34] and general health[35] was less clear in women than in men, and thus the link between job strain and nutrient intake may also be less clear in women than in men. This is also attributable to the smaller number of women in our sample.

Worksite support was found to be positively associated with daily intakes of crude fiber, retinol, carotene, and vitamins A, C, and E among men and with daily intakes of protein and vitamin E among women, although differences among the quartiles for nutrient intakes were small, particularly for crude fiber among men and vitamin E among men and women. This finding is in agreement with previous findings that general social interaction was positively associated with greater intakes of vegetables and fruit.[17,18] Although the roles of these micronutrients and vitamins in preventing CHD are not clear,[8] the consumption of fiber, protein,[9] carotene,[32] vitamin C,[35] and vitamin E[32] have shown to have some protection against CHD. Calcium intake was also found to be associated with a lower risk of hypertension.[36] Therefore our findings may explain the association between worksite support and a lower risk of CHD[10-12] to some extent. Workers who receive a high degree of worksite support may be more aware of the value of a healthy diet as a result of the information and emotional support that they receive from their fellow workers. Lower psychological strain among workers who receive greater worksite support may also make it easier for them to maintain their good health behaviors.

Among both men and women, total energy intake was greater for the groups with higher worksite support. Men who received a high degree of worksite support consumed more cholesterol and saturated fatty acid than did their counterparts. These findings are inconsistent with previous literature that reported a protective effect of worksite support on CHD.[10-12] Worksite social support seems to be associated with both risk *and* protective factors for CHD. Workers who have good social relationships at their workplace may have more opportunities to eat high-calorie and fat-rich foods together at social gatherings with their supervisors and coworkers. Some of these associations between worksite support and nutrient intakes seemed non-linear, suggesting a more complex behind the influence of worksite support on dietary behaviors. Previous reports have suggested that peer support is sometimes associated with unhealthy lifestyles, such as smoking and drinking.[37-39] More detailed dimensions of social interactions at workplaces should be considered in future studies in order to clarify this association between worksite support and diet.

The present findings on the association among job strain, worksite support, and diet may be specific to Japan because the availability of food is greatly different between Japan and most Western countries. Even if the diets for workers with a high degree of job strain were similar, e.g., a higher consumption of animal products, the consumption of nutrients in Japan and the US still might differ. In addition, a previous study conducted in rural Japan indicated that the association between job strain and diet was different between agricultural and non-agricultural workers.[6] Our findings therefore need to be replicated among different occupations, between urban and rural areas, and across countries.

By applying a 31-item DHQ, we were able to obtain a more detailed picture of the association between the psychosocial work environment and diet. However, it should be noted that the DHQ is more suitable for ranking people according to nutritional intakes, rather than for estimating absolute values. Moreover, a random measurement error in the DHQ might attenuate a true association towards null. In such a case, we may have overlooked some important associations among job strain, worksite support, and nutrient intake. Furthermore, the assessment of the psychosocial work environment (job strain and worksite support) and diet was based on self-reported data, and therefore the tendency for individuals to provide affirmative responses may have confounded the findings. In addition, a cross-sectional design of the present study limits a causal interpretation. Some diets may also reduce psychological distress.[40] In such cases, workers may report lower job strain and higher worksite support.

In conclusion, the present study found that job strain and worksite support were only weakly and inconsistently associated with nutritional intakes. It does not seem that changes in nutritional intakes explain the association between job strain or worksite support and CHD.

REFERENCES

1. Karasek R. Job demand, job decision latitude, and mental strain: implications for job redesign. Adm Sci Q 1979; 24: 285-308.
2. Karasek R, Theorell T. Healthy work. Basic Books, New York, 1990.
3. Schnall PL, Landsbergis PA, Baker D. Job strain and cardiovascular disease. Annu Rev Public Health 1994; 15: 381-411.
4. Kawakami N, Haratani T, Araki S. Job strain and arterial blood pressure, serum cholesterol, and smoking as risk factors for coronary heart disease in Japan. Int Arch Occup Environ Health 1998; 71: 429-32.
5. Hellerstedt WL, Jeffery RW. The association of job strain and health behaviours in men and women. Int J Epidemiol 1997; 26: 575-83.
6. Tsutsumi A, Kayaba K, Yoshimura M, Sawada M, Ishikawa S, Sakai K, et al. Association between job characteristics and health behaviors in Japanese rural workers. Int J Behav Med 2003; 10: 125-42.
7. van Loon AJ, Tijhuis M, Surtees PG, Ormel J. Lifestyle risk factors for cancer: the relationship with psychosocial work environment. Int J Epidemiol 2000; 29: 785-92.
8. World Health Organization. Diet, nutrition, and the prevention of chronic diseases. Technical Report Series 797. Geneva.World Health Organization, 1990.
9. Hu FB, Willett WC. Diet and coronary heart disease: findings from the Nurses' Health Study and Health Professionals' Follow-up Study. J Nutr Health Aging 2001; 5: 132-8.
10. Astrand NE, Hanson BS, Isacsson SO. Job demands, job decision latitude, job support, and social network factors as predictors of mortality in a Swedish pulp and paper company. Br J Ind Med 1989; 46: 334-40.
11. Falk A, Hanson BS, Isacsson SO, Ostergren PO. Job strain and mortality in elderly men: social network, support, and influence as buffers. Am J Public Health 1992; 82: 1136-9.
12. Johnson JV, Hall EM. Job strain, work place social support, and cardiovascular disease: a cross-sectional study of a random sample of the Swedish working population. Am J Public Health 1988; 78: 1336-42.
13. Bosma H, Peter R, Siegrist J, Marmot M. Two alternative job stress models and the risk of coronary heart disease. Am J Public Health 1998; 88: 68-74.
14. Knox SS, Theorell T, Svensson JC, Waller D. The relation of social support and working environment to medical variables associated with elevated blood pressure in young males: a

structural model. Soc Sci Med 1985; 21: 525-31.

15. Matthews KA, Cottington EM, Talbott E, Kuller LH, Siegel JM. Stressful work conditions and diastolic blood pressure among blue collar factory workers. Am J Epidemiol 1987; 126: 280-91.
16. Niedhammer I, Goldberg M, Leclerc A, David S, Bugel I, Landre MF. Psychosocial work environment and cardiovascular risk factors in an occupational cohort in France. J Epidemiol Community Health 1998; 52: 93-100.
17. Lindstrom M, Hanson BS, Wirfalt E, Ostergren PO. Socioeconomic differences in the consumption of vegetables, fruit and fruit juices. The influence of psychosocial factors. Eur J Public Health 2001; 11: 51-9.
18. Van Duyn MA, Kristal AR, Dodd K, Campbell MK, Subar AF, Stables G, et al. Association of awareness, intrapersonal and interpersonal factors, and stage of dietary change with fruit and vegetable consumption: a national survey. Am J Health Promot 2001; 16: 69-78.
19. Kawakami N, Haratani T, Kobayashi F, Ishizaki M, Hayashi T, Fujita O, et al. Occupational class and exposure to job stressors among employed men and women in Japan. J Epidemiol 2004; 14: 204-11.
20. Karasek R. Job Content Questionnaire. Department of Industrial and Systems Engineering, University of Southern California, Los Angeles, 1985.
21. Karasek R, Brisson C, Kawakami N, Houtman I, Bongers P, Amick B. The Job Content Questionnaire (JCQ): an instrument for internationally comparative assessments of psychosocial job characteristics. J Occup Health Psychol 1998; 3: 322-55.
22. Kawakami N, Kobayashi F, Araki S, Haratani T, Furui H. Assessment of job stress dimensions based on the Job Demands-Control model of employees of telecommunication and electric power companies in Japan: reliability and validity of the Japanese version of Job Content Questionnaire. Int J Behav Med 1995; 2: 358-75.
23. Landsbergis PA, Schnall PL, Warren K, Pickering TG, Schwartz JE. Association between ambulatory blood pressure and alternative formulations of job strain. Scand J Work Environ Health 1994; 20: 349-63.
24. Takatsuka N, Kurisu Y, Nagata C, Owaki A, Kawakami N, Shimizu H. Validation of simplified diet history questionnaire. J Epidemiol 1997; 7: 33-41.
25. Shimizu H, Ohwaki A, Kurisu Y, Takatsuka N, Ido M, Kawakami N, et al. Validity and reproducibility of a quantitative food frequency questionnaire for a cohort study in Japan. Jpn J Clin Oncol 1999; 29: 38-44.
26. Resources Council, Science and Technology Agency, Japan. Standard tables of food composition in Japan, 4th edition. 4th edition ed. Department of Printing, Japanese Ministry of Finance, Tokyo, 1982.
27. Willett W. Implication of total energy intake for epidemiological analyses. In: Willett W, editor. Nutritional epidemiology. Oxford University Press, New York, NY, 1990: 245-71.
28. Martikainen P, Brunner E, Marmot M. Socioeconomic differences in dietary patterns among middle-aged men and women. Soc Sci Med 2003; 56: 1397-410.
29. SAS Institute Inc. SAS/STAT user's guide, release 6.03 ed. SAS Institute Inc., Cary, NC, 1988.
30. Hopkins PN. Effects of dietary cholesterol on serum cholesterol: a meta-analysis and review. Am J Clin Nutr 1992; 55: 1060-70.
31. Kromhout D, de Lezenne Coulander C. Diet, prevalence and 10-year mortality from coronary heart disease in 871 middle-aged men. The Zutphen Study. Am J Epidemiol 1984; 119: 733-41.
32. Rimm EB, Stampfer MJ, Ascherio A, Giovannucci E, Colditz GA, Willett WC. Vitamin E consumption and the risk of coronary heart disease in men. N Engl J Med 1993; 328: 1450-6.
33. Yusuf S, Dagenais G, Pogue J, Bosch J, Sleight P. Vitamin E supplementation and cardiovascular events in high-risk patients. The Heart Outcomes Prevention Evaluation Study Investigators. N Engl J Med 2000; 342: 154-60.
34. Greenlund KJ, Liu K, Knox S, McCreath H, Dyer AR, Gardin J. Psychosocial work characteristics and cardiovascular disease risk factors in young adults: the CARDIA study. Coronary Artery Risk Disease in Young Adults. Soc Sci Med 1995; 41: 717-23.
35. Bolton-Smith C, Woodward M, Tunstall-Pedoe H. The Scottish Heart Health Study. Dietary intake by food frequency questionnaire and odds ratios for coronary heart disease risk. II. The antioxidant vitamins and fibre. Eur J Clin Nutr 1992; 46: 85-93.
36. Graudal NA, Galloe AM, Garred P. Effects of sodium restriction on blood pressure, renin, aldosterone, catecholamines, cholesterols, and triglyceride: a meta-analysis. JAMA 1998; 279: 1383-91.
37. Westman M, Eden D, Shirom A. Job stress, cigarette smoking and cessation: the conditioning effects of peer support. Soc Sci Med 1985; 20: 637-44.
38. Caplan RD, Cobb S, French JR, Jr. Relationships of cessation of smoking with job stress, personality, and social support. J Appl Psychol 1975; 60: 211-9.
39. Tsutsumi A, Tsutsumi K, Kayaba K, Igarashi M. Health-related behaviors, social support, and community morale. Int J Behav Med 1998; 5: 166-82.
40. Dye L, Blundell J. Functional foods: psychological and behavioural functions. Br J Nutr 2002; 88 Suppl 2: S187-S211.

Appendix. Categorization of job strain, job demands, job control, and worksite support in men and women.

	Men (n=15,295)			Women (n=2,853)		
Group	(Range)	N	%	(Range)	N	%
			Job strain (job demands/job control ratio)			
1=low	(0.27-0.86)	3794	24.8	(0.37-0.92)	704	24.7
2	(0.86-0.96)	3838	25.1	(0.92-1.03)	708	24.8
3	(0.97-1.08)	3770	24.6	(1.04-1.21)	727	25.5
4=high	(1.08-3.37)	3893	25.4	(1.20-3.83)	714	25.0
			Job demands			
1=low	(12-29)	3858	25.2	(12-28)	786	27.5
2	(30-33)	4215	27.6	(29-31)	594	20.8
3	(34-36)	4631	30.3	(32-34)	807	28.3
4=high	(37-48)	2591	16.9	(35-48)	666	23.3
			Job control			
1=low	(24-62)	4568	29.9	(24-52)	726	25.4
2	(63-68)	3655	23.9	(53-60)	826	29.0
3	(69-74)	3752	24.5	(61-66)	718	25.2
4=high	(75-96)	3320	21.7	(67-96)	583	20.4
			Worksite support (supervisor support + coworker support)			
1=low	(8-19)	2881	18.8	(8-19)	684	24.0
2	(20-22)	4309	28.2	(20-21)	507	17.8
3	(23)	2682	17.5	(22-23)	857	30.1
4=high	(24-32)	5423	35.5	(24-32)	805	28.2

Int Arch Occup Environ Health (2006) 79: 213–219
DOI 10.1007/s00420-005-0027-x

ORIGINAL ARTICLE

Kyoko Kondo · Yuka Kobayashi · Kumi Hirokawa
Akizumi Tsutsumi · Fumio Kobayashi
Takashi Haratani · Shunichi Araki · Norito Kawakami

Job strain and sick leave among Japanese employees: a longitudinal study

Received: 9 December 2004 / Accepted: 5 July 2005 / Published online: 9 November 2005

Abstract *Objectives:* The present study is an investigation of the association between job stress, determined on the basis of a demand–control model or worksite social support at the baseline, and absence due to illness among employed Japanese males and females. *Methods:* We analyzed 448 male and 81 female subjects who had taken no sick leave in the year preceding the baseline (1997) and observed them all until 1999. A self-administered questionnaire was the source information collected. It consisted of questions on socio-demographic variables, occupations, health-related behavior, a Japanese version of the Job Content Questionnaire, and the number of absences in the year preceding both the baseline and follow-up. Logistic regression analyses were used to determine how the characteristics of a job at the baseline affected sickness absence of 5 days or longer per year; controls were established for the gender, age, level of education completed, occupation, number of cigarettes smoked daily, and the amount of alcohol consumed weekly. *Results:* Compared to the lowest tertile of the ratio of demand to control (job strain), the highest tertile was significantly associated with an increased risk of sickness absence of 5 days or longer per year (odds ratio 3.02; 95%CI 1.00–9.16) at follow-up. The dose–response relationship was supported (p for trend < 0.05). However, individual variables of job demand, job control, and worksite social support were not significantly associated with the risk of absence from illness. *Conclusions:* The study provided prospective evidence that job strain leads to an increased risk of sick leave among Japanese employees.

Keywords Job strain · Sick leave · Demand-control model · Japanese employee · Prospective study

Introduction

The effects of job strain, as defined by the job demand–control model [6] or the job demand–control–support model [5], on sickness absence among employees have been investigated in previous research. Cross-sectional studies indicated that job strain is associated with the number of days attributed to sick leave taken 12 months prior to the study [3, 11]. Longitudinal studies have shown that lower job control is associated with an increased risk of short (0–7 days) [18, 26], long (7 days or longer) [18], and very long term (1 month or more) of sick leave [1], as well as the frequency and length of the sick leave [16, 19]. Greater social support at work has also been linked with a reduced risk of short-term spells of sick leave [2, 18, 26] or long-term sick leave [1].

The findings with respect to associations between job demand and sick leave have been inconsistent. For example, some studies have shown an association between *lower* job demand and an *increased* risk of sickness absence [18, 19]. The effects of the demand of a job on sick leave are generally observed in favorable labor market conditions in which employees have the choice of taking sick leave or changing jobs [19]. When an employee is highly committed to the job, the job demand may preclude taking sick leave [18]. In such cases, some employees may find it difficult to take sick leave because of self-imposed and external pressures to perform their jobs completely. In addition, among these previous longitudinal studies, only two showed a significant association among job strain, a combination of greater job demand and less job control, and an increased risk

---

K. Kondo (✉) · Y. Kobayashi · K. Hirokawa
A. Tsutsumi · N. Kawakami
Department of Hygiene and Preventive Medicine,
Okayama University Graduate School of Medicine,
Dentistry and Pharmaceutical Sciences,
2-5-1 Shikata-cho, Okayama, 700-8558 Japan
E-mail: kfuji@md.okayama-u.ac.jp
Tel.: +81-86-2357173
Fax: +81-86-2357178

F. Kobayashi
Department of Psychosocial Medicine,
Aichi Medical University, Nagakute, Japan

T. Haratani · S. Araki
National Institute of Industrial Health, Kawasaki, Japan